

二〇二六年度入学試験問題

国語

(六〇分)

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、問題冊子は開かないでください。
- 二、この問題冊子は29ページあります。試験中、ページの脱落等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 三、解答用紙(マークシート)の汚れなどに気づいた場合も、同様に知らせてください。
- 四、解答は、すべて解答用紙(マークシート)に記入し、解答用紙(マークシート)の枠外には、なにも書かないでください。
- 五、解答番号は、1～43まであります。
解答用紙(マークシート)には、問題番号が1～50、選択肢が①～⑩まで印刷されていますが、解答にあたっては、各設問に指示された選択肢の数の中から選んで解答してください。
- 六、マークは必ずHBの黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、完全に消してからマークしてください。
- 七、監督者の指示に従って、解答用紙(マークシート)に解答する科目・受験番号をマークするとともに、受験番号および氏名を記入してください。
- 八、解答する科目、受験番号、解答が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 九、試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題一

次の文章は恩田陸^{おんだりく}の小説『蜜蜂と遠雷』の一部分である。高島明石^{たかしまあかし}は、楽器店の店員として生計を立てるかたわら、国際的なピアノコンクールに挑戦している人物である。以下は、コンクールの二次予選直前の明石の心境を描いた場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。

一次予選の時よりはずっと落ち着いていると思う。もちろん緊張しているけれど、これはよい緊張だ。

明石は指先を動かし、両手を握り合わせた。

一次予選の時の緊張は凄まじかった。あんなに恐ろしかったことは近年記憶にない。しかし、久しぶりのステージ、たった一度のステージの体験が、彼を大きく変えていた。

俺は音楽家になったのだ。音楽家だったのだ。

A、そんな実感が湧いてくる。

なんというリアル。なんという充実。普段の生活が、どこか遠い出来事のように。ステージの上のあの感じ、光に照らされたグラウンドピアノの佇まい^{たたず}、そこに歩いていく感じ、心地好く集中できるあの場所、観客の視線を集めて弾きだす瞬間、親密な、同時にスウコウなものが濃縮された時間。そしてあの満足感、興奮に溢れた喝采^{あふ}。観客と何かを共有し、やりトげた感じ。

ああ、やはり、ここが俺の場所だったのだ、この瞬間を求めていたのだ、家族を愛し、日々の生活を送りながらも、心はやはりこの場所を求めていたのだ。

そんな確信を B 今、舞台の袖で感じている。今この瞬間、このリアルを味わえることを、明石は心から、遥かな高みにいる誰かに感謝した。

ありがとうございます、僕をここに立たせてくれて、本当にありがとうございます。

それでもやはり、また出番が近付いてくると胃のあたりが C 重くなってきた。どきどきしている、熱に浮かされたようなもう一人の自分の意識が、こうして立っている肉体の上にほんの少しずつ浮かんている感じ。

二次予選の四十分。それはかなりの長さだ。これだけの長さを、集中力を途切れさせずに弾き続けるのは大変である。ましてや、聴衆を飽きさせずステージに惹き付けているのはもっと難しい。

プログラムを作るのは、楽しくも困難な作業だった。

技術があることを証明し、どんな作曲家の曲でも弾けることをアピールする。加えて、自分の良さと音楽性を D 感じさせるような選曲。それらを規定内の曲と新曲一曲とで審査員に伝えなければならない。

まずは、市販のアルバムから集めたお手本の演奏でプログラム曲の候補を選び、四十分にまとめ、順番を変えたり曲を入れ替えたりして何度も聴いてみた。

E 自分でもさらってみて、技術的にも、自分との相性としてもいけそうかどうか感触を確かめる。かつての恩師にも相談し、かなりの時間を掛けてやっとプログラムを決めた。

いよいよ練習に入る。

(中 略)

自分の演奏を毎回録音して聴いてみるのだが、連日ずっと聴いているとだんだん自分でも、曲が仕上がっているのか、進歩しているのかが分からなくなってくる。

よし、これならいけるんじゃないか、と自信を持つ時もあるが、全然駄目だ、どの曲もちつとも出来ていないと絶望する時もある。一次予選で落ちてしまったら、このストラヴィンスキーもシューマンも、練習時間がすべて無駄になるのだ、と弱気になることもあった。

ましてや、本選のコンチエルトの練習まではなかなか辿り着けなかった。

本選に行けるのはおまけみたいなものだと思っているからついつい後回しになる上に、オーケストラ部分を弾いてくれる相手を見つけるのにも苦労したからである。やっと相手を見つけても、もっと大変なのは、ピアノが二台ある場所を確保することだった。結局、^f 禁じ手だとは思ったものの、職場のピアノ部門に頼みこみ、閉店後に数回演奏させてもらったのが合奏での練習のすべてだった。

そんなこんなの、長いような短いような練習の日々も遠いことのように思える。こうして本番を迎えているのが夢のようだったが、同時に一秒一秒があまりにもリアルなのが不思議である。一次予選は無我夢中だったが、二回目のステージを前に、コンクールに出ているという実感が湧いてきた。

本当に、ここまで来たんだ。長い準備の成果を、披露する日が「今」来ているんだ。

不意に、^g 空恐ろしくなった。

このあとは？ この先は？ この張り詰めた日々が終わってしまったら、何が待っているのだろうか？

喝采が聞こえ、ハッと我に返る。

前のコンテストの演奏が終わったのだ。

思わずふうっと大きく息をつく。これから休憩。そして、いよいよ出番だ。

これが最後の演奏になるかもしれない。俺にできることはみんなやった。とにかく、現時点でのベストを尽くそう。

目を閉じて本番のイメージを浮かべる。

一曲目。一曲目の「春と修羅」が肝だ。これさえ納得できる演奏ができれば、あとは耳慣れた、昔から何度も弾いていた曲ばかり。現役音大生でない明石が現役でないことにいちばん困ったのは、実はコンチェルトよりもこの新曲だった。

音大生であれば、指導教官と曲の構造や解釈について検討できるし、他の教師もいる。コンテスタントどうして情報も交換できる。カデンツァも、ほとんどのコンテスタントが演奏するのは教官の手が入ったものだろう。

かつての恩師に相談したが、やはり学生時代とは違い、無条件に頼るわけにはいかなかった。恩師は恩師で現役のコンテスタントを抱えていたし、既に巢立ってしまった者としての遠慮もあった。結局、一人で曲と向き合わざるを得なかったのだ。

だが、これこそは年長のコンテスタントのアドバンテージだ、と明石は考え直した。

元々日本文学は好きだったし、宮澤賢治もいつときよく読んでいた。文学作品の解釈こそ、歳を経た者のほうが深いはずだ。

改めて通勤時間などに賢治の詩や小説を読み直し、彼に関する評論も読み、賢治の世界観、宇宙観をイメージしようと努力した。ほぼ日帰りという強行軍だったが岩手にも行き、作品の舞台になったと言われる場所を見て回った。

硬質で、異質で、浮世離れしていて、ファンタジックで——それでいてみつともなかったり、哀れだったり、情けなかったりする一面もあり——リアリストの部分と、夢想家の部分を併せ持つ——

電車に揺られながら、曲のイメージに文学作品のイメージを乗せてゆく。

ここはイギリス海岸の雰囲気——たぶんこのあたりは銀河鉄道の夜——夜空を翔るイメージ——この部分は永訣の朝かな。

うん、そうだ、カデンツァはあの台詞をメロディに乗せよう。

パツとそう閃いた。

あめゆじゆとてちてけんじや。

あめゆじゆとてちてけんじや。

賢治が死にゆく妹を詠った、「永訣の朝」の中の、ひととき印象的な妹の言葉。高熱に苦しむトシが、雪を取ってきて食べさせてくれ

と賢治に頼んだ台詞。あまりにも痛切だが、同時にとても

F

¹で音楽的な言葉だ。

明石も決して即興が得意だとは言えないが、幼い頃から「明石君には歌心がある」と言われてきた。作曲のクラスも取っていたので、メロディを作ることに苦手意識はない。

よし、右手でトシの台詞をメロディに乗せ、天に召された彼女の声が繰り返し降ってくることを表現し、左手で水晶を拾いながら世界や宇宙に思いを馳せる賢治の日々を描こう。

そう決めると、次々にメロディが浮かんできて、夢中になった。あれもこれもと入れていたら、五分近くのカデンツァになってしまい、削らなければならなくなった。他の曲の時間も考えると、どんなに長くても三分が限界である。

しかし、自分が作ったメロディはどれも可愛いもので、なかなか捨てることができない。^m悩みに悩んで、ある日妻に聴かせてみた。すると、「ごちゃごちゃしていて重たい」という返事。一般聴衆の代表のような妻の感想は、先入観がなく率直なだけにハッとさせられることが多い。

ついに、迷ったところは思い切ってすべて捨てた。そちらをもう一度聴かせたら、「いいね」と頷き、「あめゆじゅとてちてけんじゃ」に乗せたメロディを、彼女が家事をしつつ無意識に口ずさんでいるのを目にして、これは観客の耳にも残るはずだと確信した。

そして、このカデンツァが完成した時点で、やっと「俺の『春と修羅』が出来た」と思うことができたのだった。

ⁿ苦勞して仕上げた「春と修羅」だが、妻以外で誰かに聴いてもらうのは、この本番が最初で最後になるだろう。

そう思うと、もつたいないような気がして、演奏するのが楽しみでもあり、恐ろしくもあった。もちろん審査員席では、作曲者本人が聴いていて、二次予選で「春と修羅」を演奏したすべてのコンテスタントの中から、いちばん優れた演奏をした者を選ぶ菱沼賞^{ひしぬま}というのがあるのだ。

どうだろう？ 俺の「春と修羅」は、俺のカデンツァは、観客に、作曲者に、どう聴かれるのだろうか？

そんなことを取りとめもなく考えていると、開演五分前のベルが響いてきた。

出番だ。

明石は反射的に背筋を伸ばしていた。

（恩田陸『蜜蜂と遠雷』による）

(注)

1 ストラヴィンスキー……ロシア生まれのアメリカの作曲家(一八八二～一九七二)。現代音楽の展開に大きな影響を与えた。作品に「火の鳥」「ペトルーシユカ」「春の祭典」などがある。

2 シューマン……ドイツの作曲家(一八一〇～一八五六)。ドイツ・ロマン派を代表する作曲家であり、交響曲から合唱曲まで幅広い分野で作品を残した。作品に「子供の情景」「詩人の恋」「謝肉祭」などがある。

3 コンチエルト……協奏曲のこと。

4 「春と修羅」……宮沢賢治が生前に唯一刊行した詩集のタイトル。本作品では、賢治の詩をモチーフにしてつくられた現代曲であり、コンクール課題曲の一つであるという設定である。「ほぼ無調の曲」「長さは約九分で、演奏時間の四分の一近くを占めるのだから、どの順番で演奏するかは大きな問題である。」とある。

5 カデンツァ……楽曲の終結部で、独奏者の演奏技巧を発揮させるために挿入される、華美な装飾的楽句。

6 宮澤賢治……詩人・童話作家の宮沢賢治(一八九六～一九三三)の正字表記。

7 イギリス海岸……岩手県花巻市を流れる北上川と猿ヶ石川の合流点から南にかけての北上川西岸。イギリスのドーバー海峡に面した白亜の海岸を連想させる泥岩層が露出することにちなみ、賢治が名付けた。

問一

傍線部a「明石は指先を動かし、両手を握り合わせた」とあるが、この動作が表すものはなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 1。

- 1 本番を迎えるまでの苦勞と緊張を思い出し、よい結果が出てほしいと祈る思い。
- 2 会場の空気へのまれ、弱気になる自分をなんとか落ち着かせようとする気持ち。
- 3 一次予選の緊張と高揚を思い出しながら、今の舞台に臨もうとする意気込み。
- 4 無意識のうちに手指のトレーニングを始めてしまう、ピアニストとしての習慣。

問二

空欄

A

く

E

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 2。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---|-------|---|------|---|-----|
| 1 | A | ふつふつと | B | めらめらと | C | しくしくと | D | そつと | E | さつと |
| 2 | A | ふつふつと | B | しみじみと | C | ずっしりと | D | きらりと | E | ざつと |
| 3 | A | こんこんと | B | しみじみと | C | ちくちくと | D | さらりと | E | ぱつと |
| 4 | A | しんしんと | B | ひょうひょうと | C | ずっしりと | D | ちらりと | E | ざつと |

問三

傍線部b・c・kと同じ漢字を含むものはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 3

く

5

b「スウコウ」

- 1 ユウズウがきかない人だ。
- 2 スウキな運命に翻弄される。
- 3 この部署は組織のチュウスウだ。
- 4 彼は恩師をスウハイしてやまない。

c「やりトげた」

- 1 目的をカンスイする。
- 2 人間関係をジャスイする。
- 3 スイチヨクに線を引く。
- 4 ブスイなことを言う。

k「ユられながら」

- 1 激しくドウヨウする。
- 2 地元のミンヨウを歌う。
- 3 日本ブヨウを習う。
- 4 人権をヨウゴする。

問四 傍線部d「このリアル」とあるが、どのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

号は 6。

- 1 自分が求めていたものを手に入れることができ、それを助けてくれた家族や恩師への感謝。
- 2 自分の欲求にやっと正直になり、抑圧されていた本当の自己が解放されたことへの喜び。
- 3 自分が今まさにコンクールの舞台に立ち、その場所こそが自分の居場所だという実感。
- 4 自分の演奏を喜んでくれる観客に出会い、その幸福で熱に浮かされるような不安定さ。

問五 傍線部e「本選に行けるのはおまけみたいなものだと思うからついつい後回しになる」とあるが、この表現からどのようなことがうかがえるか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

7。

- 1 本選に進めるかどうかは、運次第だと明石が考えているということ。
- 2 本選に進める可能性を、明石はほとんど考えていないということ。
- 3 明石にとって最も大切なのは予選突破にはかならないということ。
- 4 本選に進める人に対し、明石は特になにも感じていないということ。

問六 傍線部f・g・j・lの意味はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は

号は 8 11。

f「禁じ手」

- 1 他言するべきではない言動
- 2 戒めなくてはならない行動
- 3 いざという時まで使わない策
- 4 使ってはいけない手段

g「空恐ろしくなった」

- 1 実際には恐ろしいことではないのに、恐ろしい感じが否めなかった
- 2 どこからともなく不気味な気配を感じ、悪寒がするように感じた
- 3 はっきりとした根拠があるわけではないが、恐ろしい感じがした
- 4 恐ろしい気がしたが、自分の思い込みにすぎないと気がついた

j「浮世離れ」

- 1 言動が世間の常識からかけ離れていること
- 2 世間から見放されるほど享樂的に振る舞うこと
- 3 世間との関わりを断って隠居生活を選ぶこと
- 4 世間の荒波にもまれつつ巧みに世渡りすること

l「歌心がある」

- 1 歌の作り手を目指すことができる
- 2 歌の情趣を感じ取って表現できる感性がある
- 3 発声や音程などの技巧に優れている
- 4 歌の作り手の心を理解する才能がある

問七

傍線部h「だが、これこそは年長のコンテストのアドバンテージだ、と明石は考え直した」とあるが、なぜ明石はそうに考えたのか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は12。

- 1 社会人である自分の方が、教師とのしがらみもなく、自由にメロディを作ることができるから。
- 2 年齢を重ね、人生の苦楽を知り尽くした自分の方が、曲の構造や解釈を理解できるから。
- 3 社会人である自分の方が、フィールドワークにお金や時間をつぎ込めると思ったから。
- 4 元々文学好きで、年齢を重ねた自分の方が、賢治の世界を深く解釈できると思ったから。

問八 傍線部 i「宮澤賢治」とあるが、宮澤賢治の作品ではないものを次の 1～4 のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号は

13。

- 1 風の又三郎
- 2 ごんぎつね
- 3 なめとこ山の熊
- 4 注文の多い料理店

問九 空欄 F にあてはまる語句はなにか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

14。

- 1 フィジカル
- 2 アイロニカル
- 3 リズミカル
- 4 センチメンタル

問一〇 傍線部 m「悩みに悩んで、ある日妻に聴かせてみた」とあるが、なぜ妻に聴かせたのか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 15。

- 1 音楽の専門的な聴き手ではない妻の意見に気づかされることがあるから。
- 2 妻も音楽関係の仕事をしており、良いアドバイザーになりうるから。
- 3 普段から自分の演奏を聴いている妻だからこそ気づくことがあるから。
- 4 家族である妻ならば、自分の気持ちを軽くしてくれると思ったから。

問一

傍線部 n「苦勞して仕上げた「春と修羅」だが、妻以外で誰かに聴いてもらうのは、この本番が最初で最後になるだろう」とあるが、ここからどのようなことがうかがえるか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

16。

- 1 コンクール終了後は、社会人に戻り、二度とステージには上がるまいと明石が決めていること。
- 2 本番が終わった後、自分流にアレンジした「春と修羅」を明石が封印しようとしていること。
- 3 コンクールから離れた後は、妻にだけ自分の「春と修羅」を聴かせたいと思っていること。
- 4 二次予選をひとつの区切りとする気持ちで、たった一度の演奏に明石がすべてを懸けていること。

問題二

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

馬は、哺乳類・有蹄類・奇蹄目に属する。有蹄類はすべて草食動物であり、肉食動物から逃れるために、指の爪先が進化した蹄で動く。奇蹄目は指趾が奇数であり、バク、サイ、ウマ科からなっている。ウマ科はもともと進化した奇蹄目であり、属名としてエクウスとよばれる。エクウスには、馬、ロバ、シマウマがいる。

ウマ科動物の起源をたどると、六〇〇〇万年前のヒラコテリウムにまでさかのぼる。ずんぐりとして四本指の前足と三本指の後足をもった犬ぐらいの小動物から、一本の蹄しかない足で速く走る大きくてユウガな現生馬にいたるまで、長い進化の歴史をもっている。いまからおよそ一万年前、最後の氷河時代が終了した。だんだんと気温が上昇し温暖になるにつれ、地球上の人口も増えていったらしい。A、アメリカ大陸では、ウマ科動物が絶滅してしまった。ウマ科動物ばかりでなく、マンモス、虎など、三五種類の大

型種の動物も絶滅した。先住民であるインディアン^aの狩猟活動によって捕獲され、食糧にされたのである。アメリカ大陸は、ウマ科の進化を示す化石の宝庫である。しかし、氷河期の後の原始美術に、ウマ科動物を描いたものはまったく見出されない。化石も発見されていない。アメリカ大陸の野生馬は在来種だと主張する学者もいないわけではない。だが、それらの馬は、新大陸の発見後、旧大陸からもちこまれた馬の子孫が野生化したものであるとするのが、常識になっ

てい。気候が温暖化すると、植生も変わり、森林が広がった。ユーラシアの西部にあるヨーロッパでも、事情はアメリカ大陸と似通っていた。現生人類の祖先にあたるクロマニヨン人^{注1}らは、およそ二万年前にアルタミラやラスコーなどに洞窟壁画を残したが、そこには狩猟の成功を祈願して野生の馬、牛、鹿などが描かれていた。しかし、その後、イギリス、フランス、スペインなどから、馬の痕跡はほとんど消え去ってしまう。

おそらく馬は、東方に逃れたのではないだろうか。ウクライナや中央アジアのステップ地帯に棲息し、やがて野生状態のままでは絶滅に瀕した。かろうじて一種類だけが今日まで残っているが、それがブルツェワルスキー種とよばれる馬である(中略)。この野生馬は、一八八一年にたまたま中央アジアの砂漠で発見されたが、そのときのロシアの探検家ブルツェワルスキーにちなんで名づけられた。(I)

なぜ野生の馬は、こんなにも衰退してしまったのだろうか。それを考えるうえで、フランス東部にあるソリュートレの後期旧石器時代の遺跡は、きわめて興味深い。一ヘクタールあまりの空間に、動物の骨、なかでも馬の骨がおびただしくあり、深さ九メートルにおよぶ化石となつて堆積している。このために、多くの人々が、遺跡の隣にそびえる断崖から追い落とされて殺されたのだとみなしてい

た。その悲劇にみちた運命は芸術家の想像力を刺激し、^dゲンソウ的な絵画に描写されたこともある。B、馬の習性や遺跡周辺の地形が再検討され、とりわけ骨の破碎状態がそれほどひどくないことが明らかになり、その悲劇の物語は、今日では否定されている。

かわって登場した仮説によれば、物語はこんなふうになる。一〇頭前後の馬の群が、冬の草食地である低地から谷を通って、夏の草食地である高地へ移動した。その季節移動の後を狩人たちが付け狙っていた。馬の群は、行き止まりの絶壁に追い込まれ、囲まれて、槍で殺されたのであろう。こうした馬は食肉となった。驚くべきことは、化石の堆積量からみて、このような馬の季節移動と人の狩猟活動が、そこで何万年もくりかえされたということである。(Ⅱ)

氷河時代が終わって気候が温暖になると、ユーラシアの西部には、森林が広がった。野生馬の集団は、狩人の餌食になる前に分裂して東方へと移動し、細々と棲息することになった。家畜化される以前の馬は、やはり狩猟の対象でしかなかったからである。このように、旧大陸においても、馬は絶滅しかけていたのである。この頃文明化しつつあった人間の手によって家畜として飼い慣らされなかったなら、馬は絶滅していたであらう。(中略)

C、馬は^(注3)まるで人間に飼い慣らされるために進化してきたようだと先に述べたが、そのわりには、馬の家畜化は必ずしもかんとんに成功したわけではなかった。およそ九〇〇〇年前頃、西アジアで麦の栽培が開始され、ほとんど同時期に家畜の飼育も始まっている。羊や山羊^{やぎ}に比べれば、牛や豚はやや遅れたが、馬はそれよりはるかに遅れて飼育されるようになった。

馬を家畜化する以前から、人間は家畜動物の扱い方をすでに知っていたはずである。しかし、馬を飼育するには、ほかの動物よりも、かなりの努力と革新が必要であった。

じつさい、ウマ科動物のなかでも、シマウマは現在でも家畜化されていない。もともと、ジョック・キャメロンなる男が、挫折を重ねながらも、ついに四頭のシマウマの調教に成功したという報告例がある。当歳から育てて、馬車を引くことまでできるようになったとか。しかし、彼以外にはそれらのシマウマを扱えなかったし、その彼ですらも、ときにはうまく扱えなかったらしい。もちろん、それを伝授することなどもできなかった。つまるところ、家畜化に成功したとはいえないわけである。(Ⅲ)

しかし、この男のDな熱意をみれば、馬の家畜化ができるようになる前には、数多くのキャメロンのような男がいたことが想像されるのではないだろうか。男たちは、数百年にも数千年にもわたって、また、数かぎりない世代にわたって、馬を飼い慣らそうと努めてきたにちがいない。ときには捕獲した子馬を上手に飼育し騎乗することになったとしてもおかしくない。といっても、そうした慣習や技術が伝授され広まることはなかった。そうなるためには、さまざまな条件が必要であった。(Ⅳ)

馬の家畜化は、いつ、どこで、始まったのだろうか。その条件とはどんなことだったのだろうか。

E、なによりも、人間が生活する領域と馬が棲息する領域とが接し合う地域でなければならぬ。人間は食物の豊かな森林地帯を好み、馬は敵の少ない草原地帯を好む。そうすると、馬の家畜化が起ころるのは、森林と草原の狭間の地域ということになる。

その地域は、古代の文明社会の周縁にあったにちがいない。そこでは、文明の中心地が吸い上げるために、資源そのものが不足しがちになっていただろう。狩猟によって動物は減り、森林は伐採され、土壌もコウハイ^f気味であった。それでもその地で生活を維持していかなければならない人々がいた。人間集団の周囲に棲息していた動物の側にも、自然資源の不足は、漠然とした圧力として感知されていた。もはや人間に接して生きることも不利益ではないという感じがあったかもしれない。

人間が世話をしたいという態度をみせれば、動物は世話を請うふるまいを示すようになる。そのような条件が出そろった地域とはいったいどこだろうか。さらに、その地域は、一カ所にかぎられるのであろうか。

動物を飼育する営み、F 牧畜の起源については、もともと狩猟採集から牧畜に移行したと考えられていた。しかし、最近の考古学の成果は、むしろ農耕地帯において牧畜が始まったことを示唆している。おそらく、動物の種類によって、それぞれの家畜化にも年代や場所の差異があるのではないだろうか。早期に飼い慣らされた羊、山羊、さらに牛は、西アジアの初期農耕地帯において牧畜の対象となったのだが、遅れて馬やトナカイが、狩猟地帯で家畜化されたのではないだろうか。

(中略)

ところで、馬の家畜化は、どこかで一つの大きなきっかけがあり、その慣習が方々にフキユウ^gしていったのだろうか。それとも、異なる地域で別々に生じたのだろうか。家畜馬をめぐる一元説か多元説かという議論である。一回かぎりなら、その始原地はウクライナ周辺であつただろうし、さまざまな地域であれば、ウクライナ、ドイツ、イベリア、アナトリアなどが考古学の遺跡や発掘から推定されている。

このような議論に深く関わる問題がある。これら家畜馬は、たとえばブルツェワルスキー馬のような野生馬の一種類にさかのぼるのだろうか。それとも、いまでは絶滅してしまったにしても、野生馬の数種類にその祖先を求められるのだろうか。というのも、古代からG 家畜馬が記録されていたし、ヨーロッパの北方にはずんぐりとした小柄なポニー、ヨーロッパ中部には重種馬、西アジアやエジプトにはアラブ馬というふうに、見かけからしてまったく異なる家畜馬がいたからである。これらがそれぞれ、異なる祖先をもつものと推定されたとしても、奇妙ではない。(V)

この問題^hについては、生物学が有効な手がかりをもたらししてくれる。馬の染色体数をみると、現存する唯一の野生馬であるブルツェ

ワルスキー馬と現代の家畜馬とは、数が異なっている。プルツェワルスキー馬の染色体数が六六であるのに対して、現代の家畜馬は例外なく六四しかもたない。しかし、例外なく同じ染色体数であるということから、家畜馬一元説の可能性が高くなる。というのも、家畜化された馬の群のなかで生じた突然変異が世界中の家畜馬に伝えられていったと、考えられるからである。家畜馬の集団に起こった遺伝子異常は、野生馬との隔たりを増大させたのだろう。(Ⅵ)

最後にダーウイン^(注4)の予見を紹介しておこう。家畜馬の間にはさまざまな体形、毛色、模様などの違いがみられたにもかかわらず、ダーウインは、すでに一九世紀半ばに、家畜馬が単一の祖先にさかのぼるという見解を表明していた。彼は、イギリスから中国にいたるさまざまな地域に存在したさまざまな品種の家畜馬の肩や肢^{あし}にみられる縞模様^{しま}に注目した。それらの例を集めて分類すると、こげ茶色の馬とねずみ色の馬に、縞模様がもつともしばしば現れていることに気がついた。それらは、ほとんどの品種の家畜馬ではもはや失われた祖先のウマ科動物の特徴が隔世遺伝したものと、考えられるのである。(Ⅶ)

彼は、「家畜馬のすべては、ただ一種類の、ねずみ色でいささかなりとも縞模様のある原始的な血統の子孫である。そうした祖先をもっているの、今でも馬はときどき先祖返りをする^(注5)ことがある」と述べている。CTスキャンのない時代にシヨクシンⁱで病因を探りあてたような、みごとな芸当である。

H

ダーウイン、

I

ダーウインである。

(本村凌二『馬の世界史』による)

(注) 1 アルタミラ……アルタミラ洞窟。スペイン北部の村サンティリヤーナ・デル・マルの近郊に位置し、クロマニヨン人が遺した洞窟壁画の代表

例として知られる。

2 ラスコ……ラスコー洞窟。フランス西南部ドルドーニュ県、ヴェゼール溪谷のモンティニャック南東に位置し、アルタミラと同様、クロマ

ニヨン人による洞窟壁画の代表例として知られる。

3 馬はまるで……筆者は、同著第一章前半において、馬は様々な点で人間に飼い慣らされる条件をもともと備えており、「馬の進化は人間にとって神の恩寵であつたとさえいいたいくなる。」と述べている。

4 ダーウイン……イギリスの博物学者、生物学者(一八〇九―一八八二)。自然選択説による進化論を提唱した。

5 CTスキャン……CT検査のこと。CTとは、コンピュータ断層撮影(Computed Tomography)の略称である。X線を用いて身体の断面を撮影し、体内の様々な病巣などを発見することができる。

問一

傍線部 a・d・f・g・i と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 17) 21。

a「ユウガ」

- 1 このガロウでは作品だけではなくお茶も楽しめる。
- 2 ガガクの調べに耳をかたむける。
- 3 ガシユウにとらわれ、苦難を招く。
- 4 彼は小さな問題はシガにもかけなかった。

d「ゲンソウ」

- 1 恋人にゲンメツした。
- 2 物品の返却キゲンを守る。
- 3 相手のゲンチを取る。
- 4 暑さで食欲がゲンタイする。

f「コウハイ」

- 1 神前にサンバイする。
- 2 ハイユウを目指して演技を学ぶ。
- 3 古い家具をハイキする。
- 4 ハイキガスを規制する。

g「フキユウ」

- 1 建物がロウキユウ化する。
- 2 権利をヨウキユウする。
- 3 水分をホキユウする。
- 4 問題についてゲンキユウする。

i「シヨクシン」

- 1 腕の悪い医者にゴシンされる。
- 2 新しい考えがシントウする。
- 3 身体のシンまで冷えてしまう。
- 4 文化のシンコウをはかる。

問二

空欄

A

、

C

、

E

・

F

当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 22。 にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|---|------|
| 1 | A | しかし | B | また | C | 一方 | E | まず | F | すなわち |
| 2 | A | 一方 | B | そして | C | また | E | しかし | F | よって |
| 3 | A | しかし | B | 一方 | C | それでは | E | つまり | F | ただし |
| 4 | A | 一方 | B | しかし | C | ところで | E | まず | F | つまり |

問三

傍線部b「それらの馬は、新大陸の発見後、旧大陸からもちこまれた馬の子孫が野生化したものであるとするのが、常識にか

なっている」とあるが、なぜか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 23。

- 1 アメリカ大陸と似通っているユーラシア西部にあるヨーロッパでも、馬の痕跡は消え去っているから。
- 2 氷河期後、アメリカ大陸では多くの動物が絶滅し、当時の原始美術にもウマ科動物を描いたものは皆無であるから。
- 3 氷河時代が終わり、気候が温暖になると、旧大陸から野生馬が新大陸へ移動してきたから。
- 4 東方に逃れた野生馬のなかで、辛うじて生き残ったブルツェワルスキー種とよばれた馬が新大陸で発見されたから。

問四 傍線部c「なぜ野生の馬は、こんなにも衰退してしまったのだろうか」とあるが、その理由として有力視されているものはなに

か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 24。

- 1 人間との共生も不利益ではないと、馬たちが自ら感知するようになったから。
- 2 人間たちから断崖に追い落とされて殺されるという悲劇的な運命を背負っていたから。
- 3 環境の変化という事情だけではなく、長い間、人間たちの食糧とされてきたから。
- 4 人間たちの手により、馬たちがあつという間に家畜化されてしまったから。

問五 傍線部e「馬を飼育するには、ほかの動物よりも、かなりの努力と革新が必要であつた」とあるが、なぜこのようにいえるのか。

次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 25。

- 1 人間たちが、すでに扱い方を心得ていた動物たちの飼育方法に固執してしまう傾向があつたから。
- 2 ウマ科動物を飼い慣らすための慣習や技術が伝授され広まるためには、さまざまな条件が必要だったから。
- 3 男性たちが、幾世代にもわたって馬を飼い慣らそうと努力したが、調教に成功した例はなかったから。
- 4 野生の馬を家畜化するには集団的な突然変異を待たなければならず、人間の力だけでは対処できないから。

問六 空欄 D ・ G にあてはまる四字熟語の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選び

マークしなさい。解答番号は 26。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| 1 | D | 自暴自棄 | G | 前代未聞 |
| 2 | D | 縦横無尽 | G | 千載一遇 |
| 3 | D | 荒唐無稽 | G | 多種多様 |
| 4 | D | 七転八倒 | G | 弱肉強食 |

問七 傍線部h「この問題」とあるが、どのような問題か。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号

は 27。

- 1 馬の家畜化に際しての大きなきっかけと、それに関する慣習がどのようなものであったか、という問題。
- 2 野生馬であるプルツェワルスキー種と現代の家畜馬の染色体数がなぜ異なっているのか、という問題。
- 3 古代から家畜馬の記録が残されてきたことから、馬の祖先を明らかにしなくてはならないという問題。
- 4 馬の家畜化に関わる家畜馬の祖先が一種類であるか、それとも数種類にわたるのか、という問題。

問八

空欄

H

・

I

にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 28。

- | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|
| 1 | H | やはり | I | ただし |
| 2 | H | さすが | I | やはり |
| 3 | H | これが | I | しかし |
| 4 | H | だから | I | されど |

問九

本文では次の一文が抜けている。この部分が入るべき箇所は本文の(Ⅰ)～(Ⅶ)のうちのどこか。後の1～7のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 29。

「そのために、プルツェワルスキー馬のような野生馬は、ステップ地帯の彼方^{かなた}へとますます追いやられていったのである。」

- | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| (Ⅶ) | (Ⅵ) | (Ⅴ) | (Ⅳ) | (Ⅲ) | (Ⅱ) | (Ⅰ) |

次ページ以降にも問題があります。

問題三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日本語はよく曖昧な言語だといわれる。(中略)^a日本語の表現が言語主体(話し手)に密着しているために、客観性に欠けるからだ。表出されるイメージが「即物的・即時的」なのだが、それは話し手の意識の内部でそうなので、外部の人(聞き手)には、必ずしも即物的でも即時的でもないから、話し手のメッセージははっきり伝達されないという^bうらみがある。

日本が古代に国家として成立するために、国語が大和言葉では公用語としての適性を欠いたから、それを漢語に委ねなければならなかった。大和民族がほとんど全く話すことができない、他国の言語を機能させる社会とは、考えてみればおかしいことだ。

しかし、中国の政治や社会制度をまるごと日本に移植するということであってみれば、これはそういう機構を運用するために必要なソフトウェアなのだった。変体漢文といわれる日本語流の中国語を、いわばコンピュータ言語のように開発して、大和に当時の「近代国家」が成立した。そこでは「新しがり屋」の日本人が、^cシユウキョウも芸術も「使い捨ての文化」をつくった。

^dこの過程は、江戸時代以降の欧米文化の受容の際にも繰り返されて、今日に至っているわけで、「曖昧」という漢語本来の意味などにトンチャクせずに、いやむしろよく^{わか}解らないからこそ、「曖昧」という字面を感覚的に「曖昧」と捉えれば、事足りりとしてきたのだ。

私たちの異文化受容が、このような表層に^e留ま^{とど}まっていることについては、あとでまた考えてみることにして、ここでは日本語の基底にある「話し手」の視点について考えてみたい。(中略)

^e大和言葉を西欧語と比較して、たしかに公用語として適当でないと思われるのは、例えば「帰ります」といえば、帰るのは話し手であることが自明なのはいいとして、「……ます」という敬語表現が、話し手の聞き手に対する態度の表明となり、中国語や西欧語のように、純粹に行動だけを表出できないことだ。「ます」を省けばよいという問題ではない。

ただ「帰る」といつても、それは純粹に行うだけを表現するのではなく、特定の人間関係の中で、例えばドウリョウとか部下に対するいい方になってしまう。それにひきかえ、中国語や西欧語では、話し手が帰るのも、第三者が帰るのも、帰るという行為だけを意味することができる。日本語では「帰る」は、聞き手との関連で意味の制約を受ける。

同様に、形容詞の場合も、たとえば「悲しい」という表現は、話し手の感情がうまく出せているのだが、英語のように(He is sad.)という文が日本語ではいえない。英語の(I am sad.)と(He is sad.)という二つの文は、意味の上では同質だが、日本語の「悲しい」は、話し手についてだけに有効なのだ。

中国語の場合は、漢字の「悲」を「心に非^{あら}ず」と書くことをみても、感情を表現する手順が、抽象的で理性的だ。今日、私たちは「悲」と

いう漢字を使って私たちの心を語るが、漢字の「悲」本来の意味は、「かなしい」という大和言葉とは無縁だから、「悲」という漢字を書く意味がほとんどないといってよい。

また、「彼は悲しい」という日本語が文法になっっているのは、「彼」に対する話し手の感情の表出の場合、つまり「(私にとって)彼(が)いま置かれている状況は悲しい」という意味だから、〈He is sad〉という英文とは全く意味が違う。前者は(He)、後者は「私」の心を表現しているのだから。(中略)

このように、日本語は徹底的に「話し手」の「話し手」による「話し手」のための言語だといえる。意味も構文も使い方も、みな話し手に関わる。だから、話し手をも、人称代名詞を使って客観化できる西欧語との互換性に乏しい。そもそも「話し手」とは、語源的にも「放し手」であって、「話す」とは、話し手の内にあるものを、外にむかつて解き「放す」ことなのだ。ということは、日本語で話すということは、話し手の意識にのぼる考えなり感情なりの放出なので、同じような考えや感情のようにみえても、西欧語の場合は話し手を人称代名詞で代表させて、外界の事象と等価の意味を表現しようとしている点で日本語と違う。

また、先ほどの「悲」の場合に似て、「木」とか「森」とか、外界の物事を外界の物事として表現しようとする中国語は、基本的に西欧語に近い。公的な場面で、話し手に直接関わらない事象の情報伝達に、話し手の感情や態度が入り込むのは困るわけだが、いわゆる日本語の「曖昧」さの拠^よってきたところは、おおよそこのような事情からだろう。

日本語の客観性を高めようとして、あるいは「曖昧」さを軽減させるべく、古くは漢語を、近世以降は西欧語を取り入れて、日本の社会は「近代化」した。この「近代化」がヒソ^gウなレベルで終わっているとしたら、その一因は、大和言葉の意味が中国語や西欧語のもつ、外界の事象と等価であろうとする客観性に欠けていることが障害になっているからだ。(中略)

日本語がたとえば英語とどれほど違うかの一例として、川端康成の『雪国』の冒頭の部分を英訳と比較してみる。

國境^{こっきやう}の長いトンネルを抜^ぬけると雪國であつた。夜の底が白くなつた。

The train came out of the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky. (E. G. Seidensticker 訳)

英語で読む人は、この訳文の動詞の過去時制(〈came/lay〉)から、この話が過去の出来事であると読みとる。このような文章は、出来事を「語る」〈telling〉のではなく、事実を「見せる」〈showing〉意図を表出できる。それは、欧米の近代文学が一つの理想としたように、歴史的客観性のある書き方だ。書き手の主観的な「声」を排除して、雪国の景色は汽車も夜も雪国を「外」から、いわば神のような全知の視点で捉えられていると読むことができる。そのために訳者は〈train〉とか〈earth〉というような原作にない言葉を主語としてい

る。

一方、日本語のテキストは、この文章を書いた人が汽車に乗って観察している、「私」的時間を表出していて、この書き手の感性や感情を無視できない。文末の「……雪國であつた」「……白くなつた」は、前者は急に雪国であることに気づいたときの驚きを、後者はその時点で、暗黒の夜が白くなつたという情景の変化を観察する意識の表出だ。古い物語の語法では、前者は「……雪國なりけり」、後者は「……白くなりぬ」となるだろう。外の世界を外の世界として表出する英語の意味と、外の世界を観察する人の、外の世界に対する反応の表出としての日本語とは、このように異質だ。

日本語は、「^(注2)初めに言葉ありき」というようににはできていない。言語主体が「放す(話す)」以前に、言葉が存在しない大和言葉では、西欧的な神は存在し得ないのではなからうか。軽々しくもち出せる問題ではないのだが、日本人が観察によって世界を認識する過程とは異なり、西欧の言語は^(注3)ア・プリオリに存在する世界を先取りしているということだ。日本語との根本的な差異は、具象に対する抽象、主観に対する客観、内なる言語に対する外なるものだ。(中略)

小説『雪國』には、血肉をそなえた語り手は登場しない。しかし、そのテキストは、誰かが汽車の窓から観察していることが明らかな文章で書かれている。「私」的で「主観的」な表現だ。(トンネルを)「抜ける」という動詞は、語り手自身が汽車と一体になつて行^{おこ}なう動作で、「雪國であつた」の「……であつた」は、誰かが「雪國だ」という断定を下している表現だ。このテキストには「フクメンの語り手」がいるわけだ。

(中略)

形容詞が、話し手の事象に対する情意であり反応であることは前に見たが、いわゆるシク活用の言葉、例えば「悲しい」が第三者についての表現、例えば「花子は悲しい」に使えない(すなわち英語の〈Hanako is sad〉の意ではない)ことが、逆に他者の心情を自己のものにする道を拓^{ひら}いている。

「花子は悲しい」という文が文法的だと解釈できるのは、「花子は(話し手である私にとって)悲しい」という場合で、花子自身の内面を「悲しい」と表現する視点を話し手はもっていない。しかし、「花子は悲しそうだ」(あるいは「花子は悲しがっている」という文は、花子が悲しく思う心を話し手の内に取り込む。

人称によって語形と意味を変えることができる西欧語の形容詞は、話し手から切り離して第三者の心情を表現するわけで、その場合、話し手は必ずしもその第三者に同情や共感を寄せているわけではない。しかし日本語では、「悲しい」だろうと想像する話し手の意識の内部に、花子を住まわせることが容易だ。

「花子が好きだ」は話し手の心情だが、「太郎は花子が好きだ」という文章は、厳密にいつて太郎の心情というよりも、「太郎」を題目にすることで、話し手が太郎の身になって「花子が好きだ」と感じている表現だ。

この自己の中に他者を取り込んだ話し手の視点は「A」だ。それは事象を見る力を増幅させ、日本語での「B」の基盤になる。日本語で書かれた優れた物語の多くは、この原理によって「A」な「人間像」をつくりあげている。

ところで、人間(human beings)を「人間」と定義した日本人は、「人間」とは、人と人との間柄という構造をもっているのだと考えたのだろう。日本語に共通の話し手の視点がこの構造の基底にあって、日本人は自分というものを他人との関係によって、Cに判断している。

人が何かの決定に迫られるとき、判断の基準となるのは、まわりの人たちの見方であり、また何かを実行しなければならない場合には、いわゆる「根回し」がまず大事なのだ。

昨今の社会学では、こうした日本人の集団主義を「間人主義」と呼んだりしている。「人間」という定義の裏にある意識構造が「間人」というものだ。コンセンサスを得ることが、行動の規範となっている社会が、その基底にもっているのが日本語に共通の立場(視点)なのだ。

「間人的」視点は、しかし西欧の「全知視点」と根本的に異なる。全知視点は客観的な第三者の眼を想定して、あくまでも事象を描写(叙事)するために概念化され、その究極は「神」の視点だが、間人的視点では対象を対象として言語化できない。

すべてを話し手の内に取り込まなければ言語化できないということは、西欧文化の中で特に抽象的なもの、観念的なものの日本語化がほとんど不可能であることを意味する。例えば、西欧の近代文学の理念には、出来事をありのままに「見せること」(showing)がある。これは西欧語の視点が、客観性をもつからこそ可能なのだが、日本の文学は話し手が出来事を共感をもって「語ること」(telling)なのである。「見せること」を徹底的に推し進めた、ジェームス・ジョイスやヴァージニア・ウルフの小説は、そのために日本語にうまく移せない。

(熊倉千之『日本人の表現力と個性』による)

(注)

- 1 川端康成……日本の小説家(二八九九―一九七二)。『伊豆の踊子』などの作品がある。一九六八年に日本人初のノーベル文学賞を受賞した。
- 2 初めに言葉ありき……新約聖書『ヨハネによる福音書』第一章の言葉。言葉はすなわち神であり、この世界の根源として神が存在するという意味。

- 3 ア・プリオリ……生物学・心理学などで、ある機能が生得的に与えられていること。また哲学、特にカントの認識論では、認識・概念などが後天的な経験に依存せず、それに論理的に先立つものとして与えられていること。

- 4 コンセンサス……合意。特に、国の政策などに対する、国民の同意、賛同。

- 5 ジェームス・ジョイス……アイルランド出身の小説家・詩人(一八八二―一九四二)。『ユリシイズ』『ダブリン市民』『若き芸術家の肖像』などの作品がある。

- 6 ヴァージニア・ウルフ……イギリスの小説家・評論家(一八八二―一九四二)。『ダロウェイ夫人』『灯台へ』『オーランド』などの作品がある。

問一

傍線部 a「日本語の表現が言語主体(話し手)に密着している」とあるが、それはなぜそういえるのか。次の 1～4 のうちから適当でないものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 30。

- 1 意味も構文も全て話し手にかかわるから。
- 2 話し手の意識内部にもとづく言語だから。
- 3 話し手による話し手のための表現だから。
- 4 話し手の行為だけを意味する言語だから。

問二

傍線部 b・k の語句の意味はどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号

は 31 32。

b「うらみがある」

- 1 境遇に反発する
- 2 人に憤り、憎む
- 3 欠点や不満がある
- 4 切なく感じる

k「根回し」

- 1 物事を進める際、事前に関係者の了承を得ること
- 2 物事を決定する確固たる根拠を与えること
- 3 物事の判断基準になる、人と人との間合い
- 4 物事を決定する際、事象を見る力の基になること

問三

傍線部 c・d・f・g・j と同じ漢字を含むものはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 33 37。

c「シユウキョウ」

- 1 ゼンシユウの起源を調べる。
- 2 シユウドウインの役割を考える。
- 3 アイシユウの漂う曲を聴く。
- 4 ミンシユウの願いを聞く。

d「トンチャク」

- 1 ヨウトン場で働く。
- 2 整理セイトンが得意だ。
- 3 自衛隊のチュウトン地へ行く。
- 4 晴れた日にフトンを干す。

f「ドウリョウ」

- 1 ホンリョウを発揮する。
- 2 リョウボの手料理を食べる。
- 3 医師がシンリョウ報酬を受け取る。
- 4 カンリョウの政策を批判する。

g「ヒソウ」

- 1 両者の間に見解のソウイが生じた。
- 2 ソウダイな景観に目を見張る。
- 3 幼い頃の記憶をソウキする。
- 4 ソウゴウ病院に入院する。

j「フクメン」

- 1 フクシヨクデザイナーになる。
- 2 フクザツ怪奇な事件を取材する。
- 3 フクスイ盆に返らず。
- 4 フクギョウを禁止する。

問四

傍線部 e「大和言葉を西欧語と比較して、たしかに公用語として適当でないとと思われる」とあるが、その具体例として適当でないものを次の 1～4 のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号は 38。

- 1 「帰る」という行動の言葉であっても、日本語では特定の人間関係の間柄を表出することになる。
- 2 日本語の「悲しい」という形容詞は現象そのものを表現し、話し手の感情のみを表出できない。
- 3 日本語で「帰ります」や「帰る」といえば、話し手が帰るという行動だけが表出されるわけではない。
- 4 日本語の「彼は悲しい」は話し手の共感を表出し、英語のような公用語としての適性を欠く。

問五

傍線部 h「大和言葉の意味が中国語や西欧語のもつ、外界の事象と等価であろうとする客観性に欠けている」とあるが、ここからどのようなことがいえるか。次の 1～4 のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は 39。

- 1 日本語は中国語とは違い、外界の物事を外界の物事として表現しようとするため客観性がない。
- 2 中国語は日本語とは違い、公的な場面で、話し手に直接関わらない事象の情報伝達に、話し手の感情や態度が入り込む。
- 3 日本語は西欧語とは違い、話し手にも人称代名詞を使うことで外界の事象を外界の事象として客観化できる。
- 4 西欧語は日本語とは違い、話し手を人称代名詞で代表させ、外界の事象と等価の意味を表現しようとしている。

問六

傍線部 i「外の世界を外の世界として表出する英語の意味と、外の世界を観察する人の、外の世界に対する反応の表出としての日本語とは、このように異質だ」とあるが、『雪國』における英語と日本語の比較として最も適当なものを次の 1～4 のうちから一つ選びマークしなさい。解答番号は 40。

1 『雪國』の冒頭を「外」から神のような全知の視点で「見せる」英語訳と、汽車に乗っている人物が観察した意識を「語る」日本語の『雪國』。

2 原作にない主語を使用し、事実を「見せる」英語と、「雪國であつた」や「白くなつた」という表現で情景の変化を刻一刻と表し、第三者的時間で出来事を表出している日本語。

3 動詞の過去時制を使用せずに、この話は過去の出来事であることを表出しようとする英語と、感性や感情を表出し、主観的な声で外の世界や事実を語ろうとする日本語。

4 事実を「見せる」意図が表出でき、「初めに言葉ありき」といえる英語と、言語主体が全知の視点で対象を捉え、表出することができる日本語。

問七

空欄 A (二箇所)・B にあてはまる語句の組み合わせはどれか。次の 1～4 のうちから最も適当なものをそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。解答番号は 41。

- | | | | | | |
|---|---|-----|---|---|----|
| 1 | A | 単眼的 | ・ | B | 客観 |
| 2 | A | 絶対的 | ・ | B | 主観 |
| 3 | A | 複眼的 | ・ | B | 客観 |
| 4 | A | 客観的 | ・ | B | 主観 |

問八 空欄

C

42。

にあてはまる語句はなにか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

1 絶対的

2 近視眼的

3 相対的

4 主観的

問九

傍線部1「間人的」視点は、しかし西欧の「全知視点」と根本的に異なる」とあるが、それはどのようなことか。次の1～4のうちから最も適当なものを一つ選びマークしなさい。解答番号は

43。

1 日本人の「間人的」視点は他者の内面を表現する視点はないが、西欧の「全知視点」は、第三者に同情や共感を寄せる、究極的には「神」の視点であり、根本的に異なる。

2 日本人の「間人的」視点は共通の話し手の視点構造が基底にあるが、西欧の「全知視点」は、客観的な言語構造に基づいた個人的な視点であり、根本的に異なる。

3 日本人の「間人的」視点は話者の中にすべてを取り込んだ視点だが、西欧の「全知視点」は、共感をもって抽象的描写をする第三者視点であり、根本的に異なる。

4 日本人の「間人的」視点は自己の中に他者を取り込んで対象を語る視点だが、西欧の「全知視点」の描写は、客観的な第三者の眼を想定した視点であり、根本的に異なる。